

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成30年 2月10日
(64号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学講座
第65講

「続けることやめること」

本南一志先生



■ 垂直に生きる

執行草舟先生の書かれた『憧れの思想』という本は、鍵山秀三郎相談役が大変推薦なさっているものです。ここには、人間が人間として生きていくためには、まっすぐ垂直に生きるということが書かれてあります。人それぞれにある天分を見つけるためには、垂直に繋がっていないなければならない。まっすぐ天に繋がる生き方は何が大切なのか。それは自分自身の自分らしさをはっきりと見つけられるかどうか。森信三先生は「天からいただいた手紙」と我々に教えてくださっています。その封も開けずに去る人の多いことを思えば、いかにそれを発見していくか一度きりの人生において大切なこと。しかし私もそのようなことに気もとめず、随分お氣楽に生きてきたのでした。天に繋がる生き方は真つすぐです。支えないと倒れます。つまり自分が手を加えないと終わってしまう。常に意識しないと倒れるのです。一方水平は倒れも傾きもせず楽です。仲良く隣と手を繋いでいける。優しさの反対は厳しさです。厳しさがあるから優しさが生きる。その厳しさを保つのが、手を離すと倒れる垂直な生き方ではないでしょうか。

トイレ掃除をしていると、楽をしたい、と思う日に限って、ぎとぎとに汚れたトイレに当たったりします。あたかも「お前にできるか？」と突きつけられるかのようなのです。そのときいかに勇気を振り絞ってできるかどうか、自分を支えている力となるでしょう。

元旦からのトイレ掃除を始めて十年近くになります。元旦の朝、一人で掃除に向き合うと、冷たい指先が「今年お前はどうか」と問いかけてくるかのようなのです。当初元旦ぐらい休めよ、とも思うこともありましたが、「やるなら正月一日から」と取り組み始めました。

私は運送屋ですが、この物流の仕事は年中回っていて年末も正月もありません。しかし元旦の掃除をやるようになって、一年に節目がつくようになりました。

節目とは大事なものです。竹の節目は雪が降り積もり倒れかかっても折れずに、雪が溶けてしまったときには、再びぐつと立ち上がっているからです。この立ち上がる力は節がしっかり支えているからです。自分の人生に節をつけようとしてもなかなかつけれられないものではない。自分がこの一年どうであったかを意識して刻んでいくことは大切なことだと思います。

■ 「意」を意識する

人間の成長は、苦しみや悲しみの中にもあります。また私は掃除の厳しさからいつも教えてもらっています。昨日もマイナス六度の気温の中で会社回りを掃除していると、指の感覚がなくなってきました。掃除をやっている自分に、もうひとりの自分が「そのへんでやめろや」と声をかけます。自分で決めたやるべきことをどういう形で仕上げていくか。そこに至るまではやめない、それが答えを生み出してくれるように思います。毎日毎日「ここまでやる」として「できた」、この「できた」を積み上げていけば自分の基準が作られていくと思います。自分が自分らしくあることはある意味簡単かもしれない。しかし、まわりが世の中が良くなるための行動を起こしながら生き抜いていくとするならば、いろんな障害もあるかと思えます。マスコミは悪意をもって情報を流しているわけではなくけれども、悪意のないことが最終的に大きな悪意となつて世の中を悪くすることに繋がって



ていきます。凶悪な事件があればよく似た事件がおこるという社会現象がある。そう思うと、心を動かすきっかけをどのように持つか。意とは心を動かすきっかけの一番初めです。この「意」を意識することを「有意注意」といいます。普段心臓を動かしていることは意識しませんが、これは「無意注意」。平成五年からわが社で取り組んでいるのは、無事故・無違反・無トラブルのSDEC運動です。目標は四千日です。そしてこの取り組みは、プライベートの時間をも含め一日二四時間を対象とします。四千日の達成者は現在のべ十八名います。

■ 慈悲寛大自己反省

「慈悲寛大自己反省」とは、モラロジー研究所の廣池千九郎博士の言葉です。自分自身に原因があるわけではないが、反省すべきことがないかと探ってみること。これでいいのか？と問いかけてみることで心が少しずつ耕されるように思います。「力耕不吾欺（力耕すれば吾を欺かず）」は鍵山相談役にいただいた言葉ですが、自分の心が耕せる自分になれば、新たな自分を発見することができるとは思いません。そのたびに慈悲の心を大きく広くすること、生き方が膨らんでいくのではないかと思います。

知っていることとやっていることをできるだけ一致させていくこと。知っていることを増やすのではなく、やっていることを増やしていくことで、知っていることはやっていることに近づいてくる。しかしなんでもやったらいいというわけではなく、やってはならないこともある。それには基礎となるものがが必要です。基礎となるのは、「慈悲寛大自己反省」です。やろうとしたができていない。そこで反省しようとするので、その根っこが伸び始める。根は水平にはいかない。必ず真つすぐ下に伸びます。知っている自分がやっている自分になり始めたとき、根っこが下に伸び、生き方は天に伸び始める。いのちがそういう思いで動き始めるとき、自分の人生は変わり始めるように思います。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》

□ 講師 木南一志先生

「続けることやめること」

□ 進行 北嶋紀子塾生

【Aグループ】

① 知っていること やっていること

② 慈悲寛大

③ 垂直に生きる

【Bグループ】

① 知っていることより、やっていることを増やす

② 天の封書を開く それぞれの天分を果たす

③ 自分の内からふくらんでくる

【Cグループ】

① 垂直に生きる

② やっていることを増やすと、知っていることが減ってくる（知行一致）

③ 公のために生きる

【Dグループ】

① 天分を見つけ、自分らしく生きる

② 垂直に生きる

③ 人生の目的は金銭でなく品性を得る

【Eグループ】

① 慈悲寛大自己反省の心

② 垂直に生きる

③ 小泉信三塾長（慶應義塾大学）のお話



「塾生講話」

○ 山田 司塾生



○ 三浦しげみ塾生



○ 松本 学世話人



※ あなたも・・・

お話しくださいませ!!

次回は、五月です。

〔新年の集い〕



旧「天分塾」の星(一)

西中 務先生逝去

人間学塾・中之島の前身「天分塾」の設立発起人のお一人でした西中 務先生が、二月一日午後十時四十五分逝去なされました。

葬儀は二月五日密葬にて執り行われました。との連絡を頂きました。

なお、後日(三月頃)「偲ぶ会」が開かれる予定とお聞きしていますので、詳細が判明しだいご連絡致します。

西中 務先生には、學塾・中之島におきましても開塾第一期の講師も務めて頂き、新たな人間学塾・中之島の門出に絶大な応援くださって居りました。また来期には、登壇くださるよう心づもりもしましたので、非常に残念なことです。

常日頃から西中先生には、なにかとお心配りくださって居りましたので、大変寂しいことになり慚愧に堪えません。



西中 務先生第一期講演録 (抄録)

「人生の宝物」

學塾・中之島25年5月

■無数の方々の恩恵のうえに 私たちの法律事務所のあるビルの一階に、約四十坪のエートス・ステーションという会場があります。ここは、さまざまなセミナーや絵画の個展、ヨガ教室など、多くの方にあらゆることで使っていただいています。去年の七月から貸し出しを始めて十か月、のべ五千人の方にご利用いただいてまいりました。皆さんに驚かれるのですが、その使用料は無料です。この一等地にある会場をなぜ無料でお使いいただいているのか？それは人様のお役立ちをさせていたきたい、ただその思いによるものからです。

私たちが今ここに存在しているのは、実に多くの人のお陰によるものです。まずは自然の恵みでしょう。仮に千円の食事をいただいたとしても、これは単に千円分の恵みではありません。ご飯となる米が成長するまでの間の太陽や水の力が必ずあります。

また、乗り物にしても、一万円ほどで新幹線にも乗れますが、新幹線の建設に携わった方々がいらつしやる。東京から博多までの新幹線の建設工事において、四一七名の方々が亡くなっておられるのです。そんな人たちのお蔭があつてこそ私たちは快適に新幹線を利用できているのであり、けつして千円を払っているから食事できて当たり前、一万円払ったのだから新幹線が使えて当たり前ではないのです。

■「恩返しと下坐行」

今から四十年以上前、母校の北野高校で、先輩となる森繁久弥さんの講演会がありました。当時は生徒たちの自殺が多く、大きな問題となっていました。講演会は「二百万人の人に御礼」というテーマで、森繁さんは生徒たちに「皆さんは十五歳。今までどれほどの人のお陰で諸君があるのか」と問いかけられました。

そして「二百万人の人のお蔭で、現在ここにあるのです」と。十五歳となるまでに、あらゆるお世話いただいた方々から受けた恩恵は、二百万人にもなるということです。

それならば、七十歳を超えた私があるためには、もはや数にできない、無数の方々からの恩恵を受けているということでしょう。私があるために、私の作ったものなど何ひとつもない。全部人様のお蔭であり、世間のお蔭、親のお蔭です。就職や結婚の世話をしてもらったとなれば、恩返しはしやすい。しかし、太陽など自然の恵みや、あるいは見知らぬ多くの人のお蔭となると、恩返しのようにがない。この非常に大きな恩、これは道徳的な負債とも言い変えられるでしょう。

たとえば、世間では身内の者を早く入院させたいがために、ツテを使つたりということもありましようが、私はこういうことは一切いたしません。順番を狂わせてまで、自分の都合を通すのは道徳的な過失だと思ふからです。罪には二つあり、刑法的な犯罪はcrime、そして道徳的な過失はsinです。道徳的な過失をおかしたのなら、償わなければなりません。

受けてきた「恩のお返し」の思いからエートス・ステーションの館長をしております。皆様に使っていただくにあたり、見返りは求めない、お礼や感謝の要求はないと決め、ただ、使っていただきたいという思いだけでやっています。

皆様に気持ちよく利用いただきたくため、私は毎朝六時に事務所に向き、エートス・ステーションの掃除や整備などをします。森信三先生も、全ての物事には基礎や土台が必要とおっしゃられ、そして我々人間の土台とは「下坐行」だとおっしゃっておられます。



《お薦め書籍》

『二度とない人生を生きるために
いつでもどこでも精一杯』

横田南嶺 著
鍵山秀三郎



出版 P H P 出版
頒価 一六二〇円(税込)
ISBN-13 978-4-569-38823-2

京都の花園大学・総長に就任し名僧の誉れ高い鎌倉の名刹・円覚寺の横田南嶺管長と、イエローハット創業し「掃除道」を大成した「日本を美しくする会」相談役・鍵山秀三郎氏の魂の対論集。人生と禅の叡智が満載の内容です。閉塞感に覆われ先の見えない今日。自分の生きる意義と居場所を失った現代人に、「人間はいかに生き死ぬべきか」を教えてください。

《先哲に学ぶ生き方》

森信三 先生

「最高の人物」

人間の偉さは、その人の苦しみと正比例する。世の中は正直そのものである。その時代における最高の人物は、最大の内面的苦行をした人である。つまり天は、その人の苦勞に等しいだけの価値を与え給うのである。

森信三

「運命を創る一〇〇の金言」より

《人間学塾・中之島》

■ 基本カリキュラム

※日時 「春季宿泊研修」

3月10日・11日(第二土曜)

※場所 京都仁和寺 御室会館

京都市右京区御室にある真言宗御室派総本山の寺院。山号を大内山と称する。本尊は阿弥陀如来、開基(創立者)は宇多天皇。「古都京都の文化財」として、世界遺産に登録されている。皇室とゆかりの深い寺(門跡寺院)で、出家後の宇多法皇が住したこと、から、「御室御所」(おむろごしよ)と称された。明治維新以降は、仁和寺の門跡に皇族が就かなくなったこともあり、「旧御室御所」と称するようになった。御室は桜の名所としても知られる。

※カリキュラム

第一日

第一講 岩田洋治氏

「個人と組織のエンパワメント」

第二講 鈴木民二氏

「天分開花への王道」

第二日

第三講 井上象英氏

「自然と共に生きる人間学」

読書会・交流会他

※オプショナルツアー

11日午後12時より

勧修寺苑内大石順教尼記念館「可笑庵」

【淀川掃除に学ぶ会】

短信 細川三郎

実施日時 平成30年1月7日(第一日曜日)

実施場所 淀川福島地区左岸

出席者 総人数23名

昨年から近年にない寒さの中、冬時間のため9時15分から開始。

新年でも変わりなく、いつもの通り。変化があるのは、挨拶のみ。その他は毎月と同じだ。会話の中で、変化のないことが幸せの証拠だという意見が出た。収集したゴミは45L大型ポリ袋に26個となった。

10時30分終礼。お菓子のよしや様よりお土産を頂き、今日一日健康で、ゴミ拾いをさせて頂いたことに感謝して解散致しました。

